

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌芸術の森	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	17,638	(千円)
公 演 事 業	4,985	(千円)
人 材 養 成 事 業	7,769	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,884	(千円)



(2) 平成31年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	札幌ジュニアジャズスクール	2019年4月～2020年3月	参加：小学生クラス30名、 中学生クラス19名 講師：杉本武志、中嶋和哉	目標値	50
		札幌芸術の森アートホール他		実績値	49
2	北海道グループキャンプ	2020年3月25日～3月29日	【中止】 講師：タイガー大越、マーク・ウォーカー、ジョージ・ラッセル、マルコ・ピグナタロ	目標値	受講・聴講者数 106 入場者数 250
		札幌芸術の森アートホール		実績値	-
3	ジャズサロンプランナー育成講座	2020年9月～2020年1月	講師：箭原顕 コーディネーター：関 鎮京	目標値	140
		HOTEL POTMUM、 クリエイティブスタジオ他		実績値	25
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

(2) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	パークジャズライブ& ジャズセーバーズ	2019年7月13日、7月14日	参加：公募による演奏家 (281バンド、1,558名)	目標値	100,000
		大通公園2丁目他		実績値	60,791
2	ジャズパレード	2019年7月7日	指揮：阿部裕一 参加：241名(公募)	目標値	12,000
		札幌市北3条広場アカプラ		実績値	8,012
3	パークジャズライブ コンテスト	2019年7月15日	司会：タック・ハーシー 出演：審査により選ばれた10バンド	目標値	参加者 100 バンド、来場者 600
		札幌芸術の森アートホール		実績値	238
4	ジャズカフェ	2019年12月18日、19日20日	(1)12月18日 「学生ジャズトークバラエティ」 (2)12月19日 「ジャズのルーツミュージック-ラヴタイム&ブルース」 (3)12月20日 「北海道ジャズ物語」	目標値	250
		SCARTS コート		実績値	172
5	デイトタイム親子ジャズ	2019年12月22日	出演：絵本作家そら& THE NORTHERNLIGHTS ORCHESTRA	目標値	560
		クリエイティブスタジオ		実績値	181
6	ユニバーサルジャズライブ	2019年12月21日	司会：タック・ハーシー 出演：川手博史トリオ、銀河鉄道	目標値	100
		クリエイティブスタジオ		実績値	276
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>北海道の経済・文化の中心地である道都・札幌は人口 190 万人を有し、様々な大型イベントもあり年間を通じ観光客も多い。進取の気風があり、創造都市を都市戦略とするまちづくりを推進している。PMFやサッポロ・シティ・ジャズ、国際芸術祭、札幌交響楽団、活発な演劇活動など全国から注目される芸術文化事業が多く、札幌市が保有する芸術文化施設には札幌芸術の森をはじめ、「札幌市文化芸術劇場 hitaru」、クラシック専用ホール「kitara」、「札幌市教育文化会館」など充実した施設群がある。市民の文化芸術に対する意識と評価も高く（札幌市文化意識調査/平成 30 年 2 月実施）で 86%以上の市民が文化芸術活動が重要と回答し、40%が芸術文化イベントの多さや施設の充実が優れていると回答。芸術文化を生かしたほうが良い分野の上位 4 位は教育、地域活性化、高齢者福祉、子育てと続く。</p> <p>開園 33 年目となる札幌芸術の森は、音楽・舞台芸術、美術、工芸の各分野において創作・発表の機能を持つ様々な施設と環境を有する札幌市の芸術文化の拠点のひとつである。特に、音楽・舞台芸術分野においては、大小 10 の練習室を持つアートホールや野外ステージを生かし、ジャズスクールやグループキャンプ、バレエセミナー、野外ライブなど人材育成と創造的な公演の実施を継続して実施しており、「練習」「創作」「発表」のすべての役割を担うことができるのが最大の施設の強みである。文化芸術を通して街の魅力をアップし、観光客を誘致し、文化芸術による人づくりと街づくりを目指す札幌市の施策に則り、札幌芸術の森では施設を生かした事業に取り組みむとともに、事業で得たノウハウをもとに施設外での普及事業や公演事業を展開している。</p> <p>ジャズをテーマとして 2007 年から札幌芸術の森が実行委員会とともに展開しているサッポロ・シティ・ジャズは、この視点に立ち、組み立てている事業である。市民参加とともに全国から参加者が集い観光事業の側面を持つ「パークジャズライブ」、若手演奏家育成・支援の「パークジャズライブコンテスト」「北海道グループキャンプ」、子育て世代対象「デイトタイム親子ジャズ」、高齢者や障がい者をターゲットとする「ユニバーサルジャズライブ」、人材育成事業「札幌ジュニアジャズスクール」はいずれも、札幌市の文化行政の方向性に沿った事業である。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>ジャズスクールは小・中学生を対象に 20 年間継続している。この卒業生がステップアップとして全国から集う受講者とともに参加する北海道グループキャンプは、アメリカのバークリー音楽大学の先進的教育メソッドに触れられる場であり、若者たちが飛躍するきっかけを与えている。プロミュージシャンとしてキャリアを重ねた卒業生がシティジャズ公演に出演するという人材の循環も数年前から確立している。札幌で活躍するジャズミュージシャン達によるビッグバンドプロジェクトは、バンドとしての演奏技術向上を目指しながら、芸術の異なる分野との共演による創造活動で札幌の芸術文化シーンに活気と刺激を与えている。全国からミュージシャンが発表と技術向上の場を求め「パークジャズライブ」「コンテスト」に集い、このイベントを札幌市民がボランティアで支えている。また、これらの事業の企画・制作・運営は、地元のステークホルダーである音楽プロデューサーやプランナー、音楽家達との協力体制により成り立っている。</p> <p>このように複数の継続事業が互いに関係性を持ちながら音楽を通じて「芸術の担い手」とともに「人」を育み続けている。様々な体験や出会いにより「人」を育むことは、文化芸術による人と地域活性化の礎となるものであり、今後も引き続き、継続していく意義は非常に高いと考えている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

目標設定（定量的なもの）として、公演事業では「入場者数」「アンケートにおける観客の満足度」「出演者へのヒアリング」、普及事業は「参加者数・入場者数」、人材育成事業では「参加者数」「活動回数」での目標を設定した。

#### 〈公演事業〉

- ・入場者数は315人（対目標108%）。入場率97%（対目標129%）で共に目標を達成した。
- ・アンケートでの顧客満足度調査（2月定期演奏会で実施、回収率35.2%。5段階/大満足・満足・普通・不満・とても不満）で満足以上77%（対目標110%）で達成。
- ・出演者によるヒアリングにより（3月、札幌ジャズアンビシャス反省会）、制作や運営、活動内容について意見を収集した。ダンスとの共演や地方公演で活動の幅が広がったことへの評価があった一方、よりレベルアップを図るための定期練習の改善方法やネット活用によるスケジュールや資料共有について意見を交換。
- ・事業収益率は13.4%（対目標74%）。事業における公演料には出演料以外に移動宿泊費を含んでいたが、招聘者との調整により、宿泊費が直接招聘者負担となったため、これに伴う共催負担金の収入が減少し、一方支出も抑制されたことによるもの。

#### 〈普及事業〉

- ・参加数についてはパレード241人（対目標92%）、セイバーズ138人（対目標172%）パークジャズライブ1,588人（対目標105%）、コンテスト88人（対目標88%）とほぼ9割以上で目標を達成した。
- ・入場者数ではユニバーサルジャズライブ276人（対目標276%）で地元の歴史あるビッグバンド出演により、大きく目標を上回った。パレード8,012人（対目標66.7%）、パークジャズライブ60,791人（対目標60.7%）は、目標の6割で、パレードは昨年度よりルートが短縮となったこと、パークジャズライブは会場数が減となったことが入場者数減の主な理由である。一方、会場を中心部から南区芸術の森に変更したパークジャズライブコンテストは238人（対目標39.6%）、公演数が減ったデイトム親子ジャズは181人（対目標32.3%）とともに目標を大きく下回った。

#### 〈人材育成事業〉※中止となったグローブキャンプを除く2事業

- ・参加者数ではジャズスクール49人（対目標98%）、ジャズサロン25人（対目標125%）で達成。
  - ・来場者数でジャズスクール26,992（対目標5,100人 529.2%）、ジャズサロン126人（対目標105%）で達成。
  - ・活動回数もジャズスクールで103回（対目標103%）、ジャズサロン9回（対目標112%）と目標を達成。
- ※ジャズスクール活動内訳（定期練習70回、定期公演・卒業ライブ2回、サッポロ・シティ・ジャズ事業参加5回、病院・福祉施設・地域催事等招聘ライブ9回、ミュージシャンによるジャズワークショップ4回、道内ジャズスクール交流事業4回、海外交流事業3回、スクールバンドとの交流活動5回 社会貢献活動1回）

上記のとおり、公演・普及・人材各事業で概ね目標を達成した。芸術の森に会場を変更したパークジャズライブコンテストは、これまで長く中心部での開催であったことから、利便性の問題とともに芸術の森で開催する魅力を十分に伝え切れず人数を伸ばすことができなかつたと考えられることから、今後の実施については、さらに演出やPRの工夫の検討を行うこととします。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間】

公演、普及、人材育成事業とも、事業実施期間については、参加者のニーズに極力沿うスケジュール感を持ちつつ、イベント従事者の長時間労働が働き方改革時代において問題視される中で労務量や残業時間を想定した調整等を含め検討したものである。計画に則り、ほぼ当初予定で進めることができた。

#### 【事業費】

- ・ 想定人数の根拠は、これまでの実績をもとに、客席キャパ、収支バランスから目標値を設定した。
- ・ 経費では、パレードとパークジャズライブの主要会場となる大通公園2丁目の使用について、当初は期間中を通して利用を予定していたが、平日利用が認められなかったことから、パレードのために特設した会場を一度撤去し、翌週再びステージを設置することとなり、パークジャズライブ会場設営費が倍近くかかり、大幅に経費が増額することとなった。また、コンテストを前年度の会場から芸術の森に変更したが、会場設営に係る経費策定が要望時には間に合わず、年度に入り会場全体の演出を検討する中で、大幅に増額となることが判明した。
- ・ 販売計画では、公演事業のビッグバンドプロジェクト、普及事業「デイトム」「ユニバーサル」で、出演者のファン層に注目したPRを実施した。特にビッグバンドプロジェクトではメンバーとゲスト出演ダンサーのそれぞれのファン層、デイトムは主軸の親子とともに出演者と同世代の若い女性層、ユニバーサルジャズでの地元ビッグバンドの往年のファン層を客層として想定。また、ジャズサロン事業では、講座が企画制作者育成を内容としており、広報自体も受講者が行うプログラムであったこともあり、新聞からSNSまできめ細やかな広報展開を実施しチケットが完売となった。

#### 【計画からの変更、対応】

計画時から大幅な変更（内容、収支）が生じたのは、演出上必要な舞台及び会場設営が必要となった普及事業「パークジャズライブ」と「パークジャズライブコンテスト」、内容変更の必要が生じた普及事業「ビッグバンドネクスト」、「デイトム親子ジャズ」の4事業。

7月開催に連動する形で実施したパークジャズライブと同コンテストで、舞台・会場設営に係る経費が大幅に増額（当初計画比148%増）となったため、他事業の進捗をみながら12月実施の他事業での経費圧縮を図り、事業間での収支バランスにより年間の事業全体の赤字回避に努めた。普及事業のビッグバンドネクストは、道外から招聘予定の主要パネリストのスケジュール調整が難しい状況にもあったため、企画自体を地元のジャズに焦点を当て、札幌在住の専門家等が出演する内容に変更し、旅費を中心に経費を大幅に減額（90%減）。あわせて、公演事業ビッグバンドプロジェクトでの舞台経費や旅費等の経費削減（32%減）、普及事業デイトム親子ジャズで公演実施回数減による経費減（58%）も実施した。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

今年度の劇場・音楽堂等強化推進事業では、当施設の重点事業であるサッポロ・シティ・ジャズにより「公演事業」、「人材養成事業」、「普及啓発事業」を構成し、ジャズをテーマに総合的に事業を展開した。プロ・アマ含め2,000人以上のミュージシャン、イベントコンテンツづくりに関わる多くのプランナー、地元のジャズ関係者を事業制作などで登用、30を超える飲食店やスタジオや50以上のスポンサー企業とのライブをはじめとするタイアップ、事業に参加する市民層形成のための大学との連携、そして多くの市民参加により事業を推進した。

札幌芸術の森をはじめ市内各所を会場とし、企画制作や運営、広報・発信などは札幌芸術の森が行い、当市における文化芸術のランドマーク、創造拠点としての機能を果たした。

#### (1) 創造性を確保するための人材の確保

- ・ 【公演事業】 楽曲の創造、他ジャンルとのコラボなどにおいて高い音楽性を追求するため、公演事業では音楽監督にデビッド・マッシュズ（ジャズピアニスト、米国籍、グラミー賞受賞実績）を招聘
- ・ 【普及啓発】 パークジャズライブでは、北海道内のアマチュアジャズ界に精通するジャストプランニング代表の山口克己をコーディネーターとして登用
- ・ 【普及啓発】 ジャズパレードでは、実績豊富なディキシーランドジャズのバンド活動を札幌で行う阿部裕一を登用
- ・ 【普及啓発】 ユニバーサルジャズ、ジャズカフェでは、企画構成に経験豊富で実績のある house of jazz 代表の音楽プロデューサー箭原顕を登用
- ・ 【人材養成】 北海道グループキャンプでは、世界水準の指導体制を確保するため、アメリカ・ボストンのパークリー音楽大教授のタイガー大越を主任講師とし、同氏の人脈で形成される同大学の教授陣を講師として招聘
- ・ 【人材養成】 ジャズサロンプランナー育成事業では、アートマネジメントの側面における充実を図るため、講師に音楽プロデューサー箭原顕、アートマネジメントの専門家である北海道教育大学准教授の関鎮京をファシリテーターとして招聘

#### (2) 専属団体、提携団体の存在

- ・ 【公演事業】 札幌を拠点に活動するプロのジャズミュージシャンで編成する札幌ジャズアンビシャスを、サッポロ・シティ・ジャズ専属のビッグバンドとして立ち上げ、芸術の森アートホールを拠点施設として活動を展開。2019年はCDを制作し、ジャズ専門誌で好評を博すほか、ジャズフェス、定期演奏会他道内2都市の公演など多数の演奏会を実施
- ・ 【普及啓発】 パークジャズライブコンテストでは、厳正な審査体制確立のためマスコミ、FM放送局、音楽プロデューサー、音楽指導者に依頼
- ・ 【普及啓発】 ジャズパレードは、オープニング会場の使用と地域振興を目的として札幌駅前通りまちづくり株式会社とのタイアップにより推進
- ・ 【人材養成】 札幌ジュニアジャズスクールと年間を通じた合同合宿、演奏会を行うため、北海道内の4地域（後志管内倶知安町、十勝管内広尾町・幕別町、空知管内の砂川市）の各ジュニアジャズスクールとの提携、ノルウェー・オスロ市のジャズスクール・インプロバースンとの提携を継続

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### (1) 企画内容、芸術性

#### ① 公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色

- ・ 【公演事業】ビッグバンドジャズの札幌ジャズアンビシャス定期演奏会では、札幌舞踊会所属のバレエダンサーとの共演、バイオリン奏者との共演、クラシック曲のジャズアレンジの3つの要素を取り入れた構成で行った。  
バレエダンサーとの共演曲『Volare』『I Got Rhythm』『Libertango』  
クラシック曲 ベートーベン『交響曲第5番』

#### ② 人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色

- ・ 【人材養成】20年目の活動を迎えた札幌ジュニアジャズスクールでは、20周年記念として、所属期を越えた交流を目的に、30歳代の1期生から小学1年生も参加する現20期生までが合同で参加する演奏会を行ったほか、ジャズの裾野の拡大を目的として、市内小学校4校との間で4カ月にわたる交流活動と成果発表公演を行い、北海道新聞（2020.2.17朝刊）で大きく取り上げられた。
- ・ 【普及啓発】ジャズパレードでは、地元のジャズ振興に功績があり、パレードの音楽的指導に発足当初から関わったパーカッショニスト、ジョニー黒田が4月に逝去したことから、参加者による追悼ライブをジャズパレード終了後、大通公園2丁目の特設ステージにて開催した。
- ・ 【普及啓発】ユニバーサルジャズでは、ビ・バップ音楽をトークと音楽で紹介し、地元の社会人ビッグバンド「銀河鉄道」が出演、案内役にはラジオDJのタック・ハーシー、身障者でも気軽に鑑賞できるようプログラムは点字対応を行うなど、バリアフリーに努めた。

### (2) 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信

- ・ ジャズに関する専用ホームページを開設し、【鑑賞】【演奏】【参加】の関わり方で紹介できるようにし、あわせてメールマガジンによる会員制度やSNSを活用し、きめ細かい情報発信を行い、ファン層の取り込みを図っている。
- ・ ほぼすべての事業に地元の新聞社、テレビ局、FM放送局を組み入れ、地域への事業定着に努めている。
- ・ 広報誌については、サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会予算で制作しているため、当該補助対象経費としていないが、事業が集中する夏と冬に合わせ2回発行し、公共施設、観光施設、ホテル、スーパー、ドラッグストア、レンタカー、ガソリンスタンド、レコード店、書店等で配架し、情報発信に努めた。

### (3) 創造都市に相応しいイベントづくり

当該補助事業の対象事業ではないが、一連のジャズ事業では、地元の団体や企業とタイアップして行うライブ事業によるアウトリーチや、本格的なジャズ写真展を開催したほか、イタリア・ペルージャで7月に行われたウンブリアジャズフェスティバルに前年度パークジャズライブコンテスト優勝バンドの若手ミュージシャンを派遣し、当市のフェスティバル・プロモーションを行った。さらに、地元、北海道産の食を取り込むイベントづくりも心掛け、創造性を生かした文化・産業経済の活性化を図った。

当市では市民を対象に文化芸術に関する意識調査を毎年行っており、そのなかで、当財団が主催する「サッポロ・シティ・ジャズ」は、最も認知されている文化芸術イベントである。引き続き観光資源の創出に貢献するとともに、イベントタイアップを通じた企業のブランディングへの貢献、市民参加推進による市民文化の一層の振興、音楽文化を次世代に循環させるための人材育成など、音楽文化の醸成を通して都市の発展と街づくりに資する事業として推進し、地域の文化拠点として引き続き中核的な役割を果たしていく。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

札幌芸術の森では、公演事業のビッグバンドプロジェクトは開始から8年目、人材養成事業のジャズスクールは20年目、グループキャンプは15年目、普及啓発事業のパークジャズライブは14年目、コンテストも13年目を迎える。また、これら事業を包摂するサッポロ・シティ・ジャズも2007年の発足から13回目を迎えるなど、ジャズ分野の事業を継続して実施している。この取り組みにより組織活動の持続的な発展に繋がっている。

一例として、ジャズスクールに参加していた小学生が、グループキャンプでチャンスを得てプロミュージシャンとしてのキャリアを拓き、サッポロ・シティ・ジャズの公演事業に出演者として参加する人材の循環モデルが数年前より確立されており、長く継続することで文化芸術の担い手の育成に成果をあげている。

#### (1) 人材確保における戦略

事業運営とともにスタッフの人材育成を行うことが、持続的かつ発展的な組織活動に繋がるものであり、これら人材養成事業を継続することにより段階的にスタッフのスキルアップを図っている。

人材養成事業のジャズスクールでは、毎週末の定期練習や演奏活動を含め年間100日近くの活動を行う。スタッフはスクール生や講師、保護者との連絡調整、演奏会場との調整、演奏会運営など多岐にわたる制作事務を習得する必要があるため、当該事業を職員のスキルアップのためのOJTと位置づけ、この事業を通して事業制作のノウハウや段取り能力を身につけさせている。

一定の経験を有したスタッフは、資金調達のための地元企業への営業活動と対応業務、スクール活動を他地域に拡げるための各地の団体とのネットワークを生かした制作業務など、より高度な業務を担当させている。

また、従来は専門的な知識が必要となるイベント現場においては、高いレベルでの運営ノウハウや専門性が求められることから、コーディネーターを外部委託してきたが、今年度新たに取り組んだジャズサロンプランナー育成事業は、イベントの新たな担い手として、市民層の取り込みを目的に実施したもので、事業継続のための可能性を見出したところである。

#### (3) 協賛継続のための戦略、ステークホルダーの確保

事業の継続性を図るための外部資金調達において、広告条件の提案のみならず協賛企業との提携により、協賛社名を冠した植樹活動や福祉施設での演奏会を行うなど、地域貢献や社会奉仕など企業のCSRとしての活動を展開することにより、支援者との関係性を深めている。

また、事業の実施場所の多様化、事業露出や発信インパクトに留意するなど、協賛者の支援継続の動機づけに日常的に配慮している。

このほか、海外との交流事業が多いため、交流のある各国大使館、在札幌領事館、各国交流協会との情報交換を継続的に行うとともに、各国の文化交流補助金の活用にも努めている。

#### (5) ネットワーク提携先へのノウハウの継承

当施設で蓄積されたノウハウを伝えていくため、当財団が主導し設置した道内各地のジャズスクールには、合同合宿などを通じて指導方法や運営手法を共有するとともに、連携している大学との間で、インターン生の受け入れ等アートマネジメントの担い手の育成や支援に継続的に取り組んでいる。